

輸出事業計画

※申請者名：株式会社永野商店、品目：フグミガキ、フグ白子

1. 輸出における現状と課題

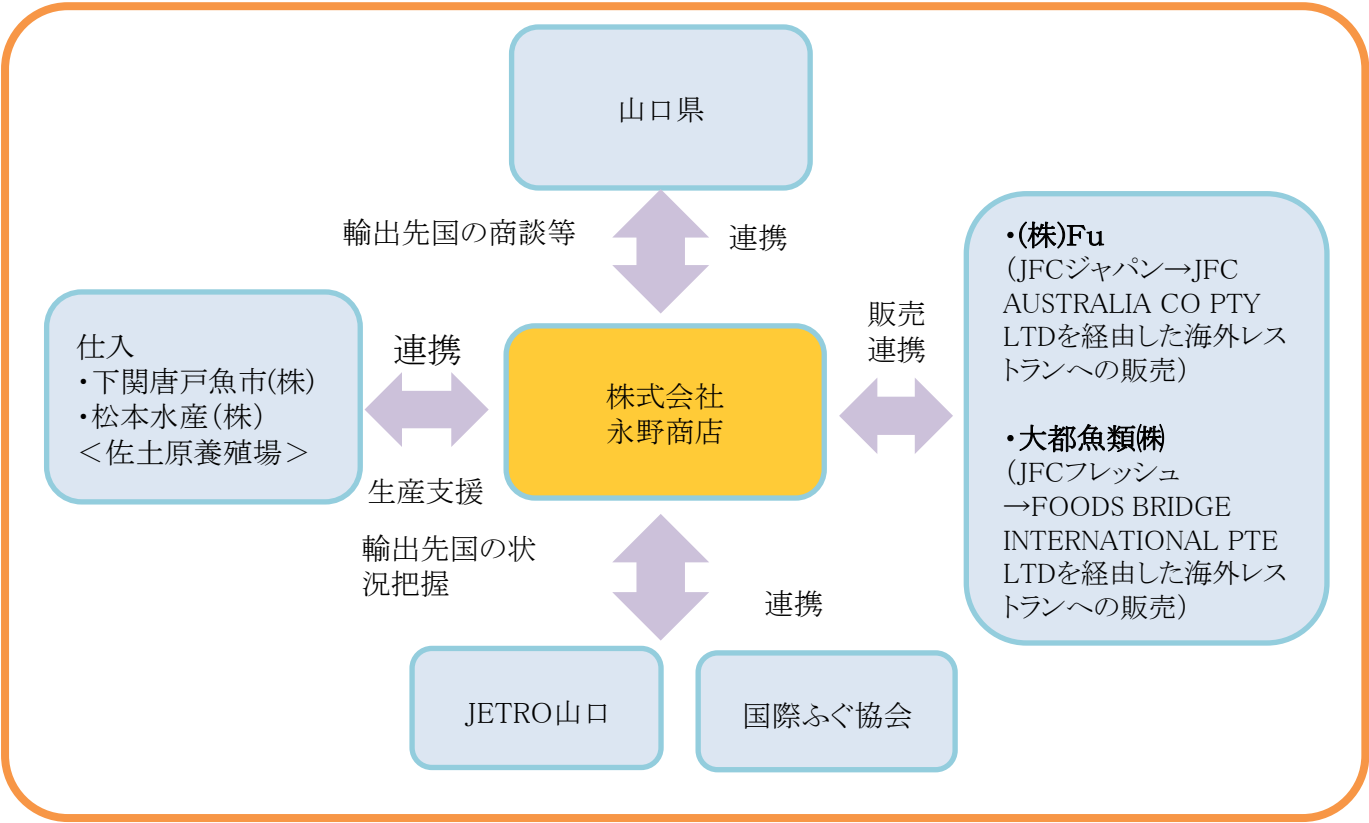
- 1 フグが輸出できる国が少ないが、2022年よりシンガポールとオーストラリアに向けて輸出が少しずつ始まった。
- 2 シンガポールは四季がなく通年需要があると考えられ、また、オーストラリアは7月が冬であり、通常出荷しない夏場を含め、通年供給が必要。
- 3 フグは毒のある魚であるため、高度な衛生管理が求められる対米 HACCP認定工場からの輸出を要請されている。
- 4 日本産フグの認知度について、「スマホで見た」、「読んだ」程度であり、本物の味を知る機会を増やし、味の認知に繋げる必要がある。
- 5 現状では注文の数量が少ないため、冷凍品でも航空便を使用しなければならない、輸送費が割高である。

2. 輸出事業計画の取組内容

- 1 養殖フグを通年出荷できるよう、陸上養殖施設を持ち、且つ、ふ化生産可能な養殖事業者と連携し、安定供給を実現する。
- 2 弊社加工場に機械・機器の導入、設備を改修し、HACCP専門家のアドバイスを受けながら、対米HACCP認定を取得する。
- 3 国際ふぐ協会や現地商社やレストランと連携して、日本産フグのプロモーションやフェアを行い、現地メディアに取り上げてもらう。
- 4 大卸に荷を集約し、大ロットにて輸出していく。

輸出事業計画
※申請者名：株式会社永野商店、品目：フグミガキ、白子

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

品 目		(令和 4 年度) 2022年 8 月～2023年 7 月	(令和 9 年度) 2027年 8 月～2028年 7 月
フグミガキ	輸出額 (千円)	8,000	35,000
	輸出量 (k g)	1,800	7,000
	輸出国先	シンガポール、 オーストラリア	シンガポール、 オーストラリア
フグ白子	輸出額 (千円)	2,000	10,000
	輸出量 (k g)	200	1,000
	輸出国先	シンガポール	シンガポール